

コミュニティ・ホーム楽

一住み慣れた自宅での生活をサポートする小規模多機能型居宅介護事業所一

佐戸 義江

平成18年度の制度改正で新設された小規模多機能型居宅介護は、私が介護の仕事をしている中で、利用者の「今」に応えられないもどかしさや切れ間ができる不安感を解消できるシステムかもしれないという期待を持ち、開設に向けての取り組みが始まりました。既存の建物を借りての事業所開設については、「ハートビル法(当時)」や「いえまち条例」との兼ね合いもあり、簡単なものではありませんでした。しかし、世田谷区の助言を受けながら設備の改修などを行い、8月1日、世田谷区で初(東京都で3番目)の小規模多機能型居宅介護事業所として指定を受けることができました。場所の選定に関しては、近くに商店街があることや地域の協力が得られる環境であることなどを考慮しました。そのことが、後の運営に大きな影響を与えています。

バリアフリー住宅

コミュニティ・ホーム楽の建物は、いわゆる施設のイメージは全くありません。普通の家造りですし、道路から玄関までは10段の階段があり、中も段差だらけです。トイレも1階と2階に1ヶ所ずつし

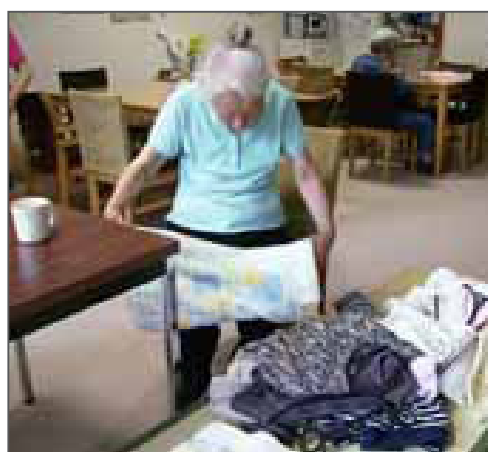


楽の外観—手すりとリフトのあるゆったりとした階段

かないので、ラッシュ時には自然に階段を上がるようになります。1階のトイレにしても、1段上がらないといけません。この“バリアフリー住宅”が利用者の脚力の維持・向上に繋がりました。利用当初はリフトを使おうと考えていた方でも、周囲が手すりに掴まって歩いて上がっている姿に刺激され、ご自分から歩きますとおっしゃいます。歩けた事が自信となり、その他の行動も活発になっていきます。日中の運動量が増えた事で、夜がしっかり眠れたり、

排泄の失敗が減ったりもしています。あえて“バリアフリー”を狙ったわけではありませんが、結果的によかったのではないかと考えています。

楽での過ごし方は、特別なカリキュラムを組んでいないので、食事作りをしている人もいれば新聞や



洗濯物をたたんでいます

テレビを見ている人もいます。利用者なのかスタッフなのかボランティアなのか、一見わからないような状態

で過ごしています。「もう一つの我が家」「大家族の一員」のつもりで過ごしてもらいたいと考え、細かい時間や



麻雀を楽しんでいます

決まりに捉われないようにしています。例えば自宅なら、午前中忙しければ昼食が1時を過ぎていたり、出前やお惣菜で済ませる事もあるでしょう。予定通

りに事が進まないことがそれほど大きな問題ではないのです。その時の状況に合わせて柔軟に対応していくことで慌てさせない、安心して過ごせることを大切にしています。

地域で暮らす

また、地域の資源は大いに活用させてもらっています。商店街への買い物や喫茶店や床屋・美容院の利用は当たり前のこととして考えています。地域の行事へも積極的に参加させてもらっています。町会の役員や民生委員の方がパイプ役となってくださり、最近ではお誘いを受ける事も多くなりました。また、受け入れていただくだけでなく、地域に還元できる取り組みも増やしていこうと取り組んでいるところです。

時には電車に乗ってのお出掛けもします。車椅子の方でも電車やバスに気軽に乗れるようになっていきますから、介護が必要になった事であきらめなくてはいけない事など何もないと思っています。思い通りにならない事が多い分、介護力でカバーして希望を現実にしていきたいと考えています。



お出掛け

介護の必要性の中で「入浴」が大きなウエートを占めている場合があります。樂では、「通い」の中と「訪問」での入浴を行っています。樂のお風呂場は2階にあり、介護事業所らしからぬ形態のため、自宅のお風呂のほうが入り易かったり、皆が楽しんでる中で自分だけがお風呂に入りに行きたくない方もいらしたりするので、選んでもらっています。「泊まり」の時は寝る前に入りたい方もいるので、8時

頃に入浴される方もいます。「泊まり」の利用を受け入れて感じたのは、皆さん不安なのだという事。樂は、個室が2部屋と普段使っているリ



寝る前に2階のお風呂へ

ビングを仕切った3床の計5床利用できますが、皆さん個室は好みません。少し騒がしいけれども、人の気配がする方がいいようです。なかなか眠れない方には、寝る前に傍でおしゃべりすることで熟睡できるという事も経験しました。

樂のこだわり

樂のこだわりの取り組みの一つとして、2号被保険者の利用があります。現在利用されているのは、50歳代の女性が2名。どちらも介護者のご主人で学生のお子さんがいます。一緒に暮らしたいというご家族の思いがありました。自宅で介護するにあたり、平日の日中が独居なのは勿論の事ですが、会社に間に合うためには8時前には家を出ます。仕事の都合で帰りが遅くなることもあります。柔軟な対応ができる小規模多機能だったから、この状況の対応が可能になりました。勿論、家族の努力は並大抵のものではありません。それでもがんばる気持ちを支えていきたいと思っています。

認知症の方が多いため、ご家族もいろいろとご苦労されています。ある方は以前の習慣で電車に乗ろうとするのですが、一人で目的地へは行けません。ご家族と駅にお願いに行き、その方がいらした時には連絡をいただけるようにしました。実際何度も連絡をいただきご家族が迎えに行っています。地域の方々のご理解とご協力に支えられて、住み慣れた自宅での生活を続けられています。いろいろな取り組みはしていますが、小規模多機能型が万全という事ではなく限界もあります。それでも、少しでも長く今までの生活を継続するために、ご本人・ご家族・地域・介護スタッフが協力し合っていけたらいいのではないかと思います。活動しています。